

長町 FC 一時滞在場所開設訓練を実施

開催日：2023年7月13日

仙台長町未来共創センター(以下長町 FC)は、地震等により公共交通機関が停止した際、1.3km 先の長町駅で発生が見込まれる帰宅困難者を受け入れる一時滞在場所として、仙台市より指定されています。

この度、発災時に迅速に施設の開設、帰宅困難者の受け入れが行えるよう、昨年度に続き2回目の一時滞在場所の開設訓練を行いました。



開設にあたっては、当社と(株)丸和運輸機関、(株)東北丸和ロジスティクスにて運営について協力協定を結んでいます。今回の訓練では、当社と(株)東北丸和ロジスティクスより、運営スタッフ役8名、帰宅困難者役12名、また、仙台市危機管理局様を含むオブザーバー2名の計22名が参加しました。

前提条件としては、平日午後発災、公共交通機関全線運転見合わせにより、以降翌日までの開設を想定。電気は使用可能(非常用発電機稼働)、上下水道使用不可という条件のもと、運営スタッフメンバーが集合してから帰宅困難者受け入れのための施設開設準備、受け入れとその後の運営に焦点を当て、各スタッフの動きを確認しました。

帰宅困難者の受け入れにあたっては、仙台市との協定にて定められている通り、実際に帰宅困難者役を長町駅に迎えに行き、走行ルートを確認。帰宅困難者役にも、高齢者、乳幼児連れ、体調不良者等様々な条件を設定し、高齢者には椅子をお貸しする、体調不良者には静かな救護室をご案内する等、それぞれに合わせた対応を意識して取り組みました。



訓練後のアンケートでは、運営スタッフ役、帰宅困難者役の方それぞれより、「実際に一時滞在場所が開設される際のイメージが鮮明になった。」「運営スタッフ役が柔軟に対応ができていた。」等ポジティブな意見が出た一方、今後の課題も多々明らかになりました。

大きな混乱が懸念される実際の発災時に、迅速に一時滞在場所を開設し、帰宅困難者の方々に少しでも安心していただけるよう、今回の訓練で出た課題の改善に取り組みつつ、定期的に訓練を行うことで、いつ起こるかわからない有事に備えてまいります。

訓練により出た感想・課題

- ・サポート体制が整っており、都度丁寧な対応で安心感があった。(帰宅困難者役)
- ・実際に帰宅困難者が多数来館した場合、対応するスタッフが足りないのではと感じた。(帰宅困難者役)
- ・開設準備に時間がかかったため、事前のマニュアルの把握が必要と感じた。(運営スタッフ役)
- ・今回参加した運営スタッフが不在の場合の対応が不安。(運営スタッフ役)
- ・余震に備え、避難スペースの備品等は転倒の危険がないよう固定が必要。(オブザーバー)